

# 総合患者支援センターニュース

〒700-8558

岡山市鹿田町2丁目5番1号

岡山大学病院

総合患者支援センター

☎ 086-223-7151 (代表)

☎ 086-235-7744 (直通)

Integrated Support Center for Patients and Self-learning  
Okayama University Hospital



センターの日常的活動に関しては

ホームページ

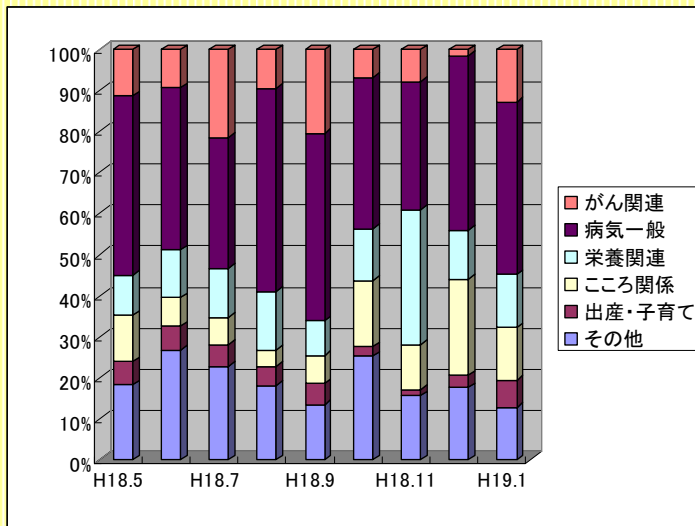
<http://www.cc.okayama-u.ac.jp>

## 自己学習を支援する場としての患者図書室

副センター長 岡田 宏基

南病棟の1階、エレベータ前に患者図書室があることをご存じでしょうか。これは、療養をされる患者様にご自分の病気や治療法についてよりよく理解していただくための図書を提供する目的で設置され、今秋で開設4周年を迎えます。運営はボランティアの方々にお世話になっています。開設当初は週に3回、1日2時間の開館でしたが、その後、ボランティアの方々の協力が増えたため、現在は土日祝日を除く毎日、午前10時から午後3時まで開館することができます。

図書室には、一般向けの医学書の他にも、療養中のちょっとした気分転換にも役立てていただけるように、小説などの娯楽書も置いております。貸し出し数から見ると、医学書は全体の1割弱で、その内訳の9ヶ月間の推移は下図のようになります。



では、自分の病気について知ることはどんな意義があるのでしょうか。まず、病気についての予備知識があることで、医師からの説明を理解しやすくなります。例えば風邪の場合、「風邪ですね」と医師が言えば、それでかなりの部分を理解できます。ところが、がん等の場合、病名だけでは即座には理解ができません。しかし、患者さまに基礎知識があれば、医師は治療法を選択を含めて、より深みのある説明をすることができます。その結果、その後の治療においても医師と患者さまが協力して行うことが容易となります。また、医学書で得る知識

には、薬剤の副作用もあります。治療を受けていて何かおかしいと思ったときに、副作用を知っていると早い段階で医師や看護師に訴えることができ、大きな障害に至らずにすむ可能性もあります。

このように、病気や薬剤について知ることは治療の大きな助けになります。患者図書室に対するご要望や、このような図書が欲しいといったご希望は今後の図書選定の参考に致しますので、遠慮なくセンター職員までお知らせ下さい。

## 歯科専門外来のご案内

当院歯科には通常の診療科の他に、下記のような専門外来があります。それぞれ各診療科から専門の歯科医師が集結し、場合によっては医科との連携を取りながら診断・治療等を行っております。

各外来のお問い合わせ先 **総合診断室 086-235-6816 (月～金 8:30～12:00)**

<p><b>口腔インプラント専門外来</b></p>	<p>抜けてしまった歯のところに、チタン金属製の人工の歯根（インプラントといいます）を使って義歯を入れる治療を専門にしています。口腔全体の機能の調和と残存歯の予防にも最大限努めています。骨移植が必要な場合や全身疾患のある患者様は、入院や歯科麻酔専門医による管理下での治療を行っています。</p>
<p><small>がくかんせつしょう</small> <b>顎関節症・</b>  <small>こうくうがめん</small> <b>口腔顔面痛み専門外来</b></p>	<p>顎関節症（あごの不調）や口・顔の痛みの治療を専門に行います。治療には、お薬、スプリント、咬みあわせ、理学療法、外科治療などの専門的な治療を行っています。また、口や顔などの神経痛などに関しても薬物療法や神経ブロックなどの治療を行っています。</p>
<p><small>がくがめんほてつ</small> <b>顎顔面補綴外来</b></p>	<p>口、顔、喉などの腫瘍や外傷などによって、皮膚や骨を手術で切除した後には、大小さまざまな傷が残ることがあります。見た目と機能が回復するように、人工の皮膚や入れ歯を使って治療を行います。眼球や耳等の欠損にも対応した治療を行います。</p>
<p><b>特殊義歯外来</b></p>	<p>一般の歯科では治療が難しい入れ歯の治療を専門にしています。入れ歯に問題を抱えている患者様に対し、形態学的診査、顎機能検査などをもとに、有床義歯の専門医が診断・治療します。</p>
<p><b>スポーツ歯科外来</b></p>	<p>スポーツ選手の種類や個性に合わせたカスタムメイドマウスガードを使って、外傷を予防し、豊かな競技生活をサポートします。スポーツ外傷についても専門的に治療を行っています。</p>
<p><b>歯科金属アレルギー外来</b></p>	<p>金属アレルギーは口腔内金属が原因であっても症状は口腔内に発現するとは限らず、手足の皮膚に出る事があります。当外来では口の中の歯科金属のアレルギーについて専門的に治療を行います。</p>
<p><b>審美歯科外来</b></p>	<p>変色歯・着色歯などの相談を行い、歯を削らない清掃や歯の漂白を中心に治療を行います。必要な場合にはダイレクトボンディングベニアやラミネートベニアと呼ばれる、特殊な薄い人工の歯を前歯にはり付けるような治療も行います。</p>
<p><b>口臭外来</b></p>	<p>お口の臭いが気になっている方の、お口の臭いの強さや種類を計測し、必要な治療を選択します。検査には①官能試験②舌苔測定③機械による揮発性硫化物の測定などがあります。</p>
<p><b>口のかわき・味覚外来</b></p>	<p>口腔乾燥や味覚障害は、年齢にともなう唾液量の低下、口腔衛生の状態、ストレス、全身疾患、お薬等、さまざまな原因により生じます。必要に応じて味覚の検査や唾液の分泌量の検査を行い、治療や口腔ケアを行います。原因によっては医科との連携を行います。</p>

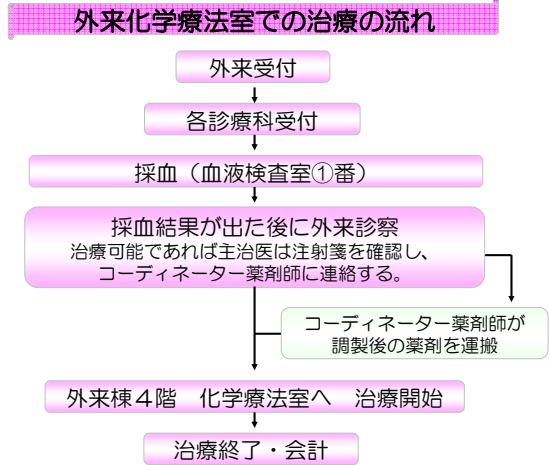
## 情報コーナーのご案内

西病棟から南病棟にかけて情報コーナーを設置し、患者様向けの医療情報の掲示、関連用具の展示を定期的に行っています。

今期間は、腫瘍センターの活動がテーマです。入院して治療しなければならなかったがん化学療法の一部が、腫瘍センター外来化学療法室で受けられるようになったことについてご紹介します。

腫瘍センター外来化学療法室は外来で化学療法を行う専用のユニットです。患者さまが安心かつ快適に外来通院で化学療法を受けられるように体制を整えています。

- ◆外来化学療法室では、安全で質の高いがん治療を提供するため、医師・薬剤師・看護師に加えて医療ソーシャルワーカー・臨床心理士など色々な職種が連携して皆様の治療を担当させていただきます。
- ◆開放的で明るい外来化学療法室には長時間の点滴も苦痛にならないようテレビなどのアメニティを備えた点滴治療用のリクライニングベッド20床を備え、専任看護師4名とがん化学療法看護認定看護師1名が皆様の治療に対応させていただきます。
- ◆治療で使われる抗がん剤についてご質問・ご心配があれば担当薬剤師が相談に応じています。



点滴治療用のリクライニングベッド

また、毎月1回外来化学療法部門会議を開催し、患者さまにとってより良い治療が提供できるようにシステムの改善や化学療法における有害事象の検討を行っています。さらに、外来化学療法室カウンターには「がん相談」の受付を設置し、総合患者支援センターと連携しながら、がんに関する相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。

## 岡山大学腫瘍センターがん相談支援講演会報告

9月7日岡山大学医学部にて、国立がんセンター中央病院がん相談支援センターの医療ソーシャルワーカー 大松重宏氏を講師にお迎えし講演会を開催しました。これは、昨年8月当院が「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、腫瘍センターと総合患者支援センターに相談部門を設置したことを院内外に広く知っていただくために開催したもので、院内外から約180名の方に参加していただきました。

大松氏は「がん相談の原則と基本方針」と題して、国立がんセンター中央病院の相談支援センターの取り組みとがん相談の援助について、具体的に実践に基づいてお話して下さいました。患者様とご家族の気持ちを傾聴、整理をし、がん種や状態、療養環境、心理面、経済面等の背景から生活全体を考え、患者様とご家族が方向性を見出すことができるような支援を通して、患者様がよりよい治療を受けられ、また担当医とよりよい関係を保てるような橋渡しをすることが相談の役割であると示されました。また、かつて入院中心だった治療から外来治療へと形態が変化しており、緩和ケアへの移行も含め院内連携、地域との協働で、患者様とご家族が意思決定していけるようサポートしていくことが重要であると大松氏は強調されました。

本講演会には県内の診療連携拠点病院の方にも参加していただき、情報交換をすることができ、日頃の取り組みについて見直す機会ともなりました。



国立がんセンター中央病院  
医療ソーシャルワーカー  
大松重宏氏

## 認定看護師 紹介

糖尿病看護認定看護師 大橋睦子

糖尿病の患者様は年々増加しており、よく聞かれる病気である一方、正しく理解されていないことも多いという側面もあります。糖尿病は自己管理の病気ともいわれ、治療は、食事療法・運動療法をはじめ、内服加療・インスリン自己注射・血糖自己測定と多岐にわたり、これらを修得するのは容易ではありません。私は現在内科外来を拠点として、患者様ご自身に治療法を十分ご理解頂き、日々の生活の中で実行して頂けるようお手伝いさせて頂くなど、正確な最新の情報に基づいた自己管理法を修得できるよう援助を行っております。また、外来患者様だけでなく、他の疾患の治療を目的として入院された糖尿病をもった患者様に対する相談、入院患者様の糖尿病カンファレンス等にも参加させて頂き、栄養士、薬剤師など、他のコメディカルとも協働・連携して、患者様へのより充実した支援、質の高いチーム医療が提供できるよう努めております。糖尿病看護に関するご質問等ございましたら内科外来までご相談下さい。



## こころのケア (Vol. 9)

副センター長 岡田 宏基

### ストレスへの対処方法について考えてみましょう



現代社会はストレス社会と言われるますが、皆様も日々大小のストレスに晒されていると思います。仕事をされている方では、仕事の量や、職場の人間関係などのストレスがあり、家庭におられても、近隣の人たちとのお付き合いから生じるストレスがあったりします。これらストレスに晒されると、私たちの身体には、自律神経の過剰な緊張から、動悸、血圧上昇、頭痛、めまい、ふらつきなどの身体症状が現れます。ストレスが一時的なものであれば、これらの症状もまもなく治まります。しかし、ストレス状況が長く続いたり、繰り返して生じたりすると、これら身体の症状が固定化し、いわゆる心身症と呼ばれる状態に至ります。

これを防ぐには、ストレス状況をもたらした刺激（これをストレッサーといいます）に適切に「対処」しなくてはなりません。この対処方法は、大きく、ストレッサーに立ち向かう方法と、避ける方法とがあります。例えば、職場に口うるさい上司がいて、日々細々と仕事内容に口を挟んでくるとします。この上司の言動を分析して、計画的に口うるさく言われないように自分の行動を修正する方法、直接その上司に一々細かく言わずに任せて欲しいと訴える方法、職場の同僚と対応方法を相談するなどが前者で、できるだけその上司と顔を合わせないように避ける、何か言われたら酒でも飲んでうっぴんばらしをして忘れようとする、言われたことは一理あるので、自分の成長と思って前向きに考える、などが後者になります。これらの対処方法は、何が正しいというのではなく、その状況に応じて使い分けられたらよいのです。つまり、ただ一つの方法で全てに対応しようとするのではなく、ストレッサーに応じて、対処方法を変えることができれば、身体への影響を少なくすることができます。皆様もご自分の対処方法を一度振り返ってみてください。